

令和元年度

事業報告書

自：平成31年4月 1日

至：令和2年3月31日

一般社団法人まちづくり伊達

令和元年度伊達地域まちづくり活性化事業 業務委託実績報告書

1 事業概要

一般社団法人まちづくり伊達は、伊達市と「伊達地域まちづくり活性化事業」の委託契約を結び、地域の活性化を目指し地域の資源を活用したまちづくり事業を展開している。

伊達市の官民連携のまちづくりを基本に、伊達長岡地区等の賑わい創出と地域全体の再生活活性化を支援するための事業を行った。

当社は、天王通り商店街に設置した事務所を「まちの駅」としての認定を受け、地域の情報発信や憩いの場として活用している。

また、将来、旧伊達公民館跡地での「ママノマ」運営の実験的な店舗として、「まちカフェふらっと」を整備し、積極的な取り組みを行っている。

さらに、原っぱ事業の推進、地域の活動団体との連携や商店街との協力により、各種事業を展開し伊達地域の賑わい創出を図っている。

2 理事会等の開催

(1) 理事会

○第1回（第6回）理事会 平成31年4月2日 開催

議案第1号 平成31年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
報告第1号 重要事項及び業務報告について

○第2回（第7回）理事会 令和元年6月21日 開催

議案第2号 平成30年度事業報告の承認について
議案第3号 平成30年度収支決算報告の承認について
議案第4号 令和元年度入会金及び会費について
議案第5号 理事候補者の選任について
議案第6号 新規会員の承認について
議案第7号 監事候補者の選任について
議案第8号 事務局長の任命について
議案第9号 令和元年度通常総会の日時及び場所並びに付議案件について

報告第2号 重要事項及び業務報告について

○第3回（第8回）理事会 令和元年6月27日 開催

議案第10号 代表理事の選定について
議案第11号 専務理事の選定について

○第4回（第9回）理事会 令和2年2月17日 開催

議案第12号 令和2年度まちづくり事業の骨格について

- 報告第 3 号 ママノマ計画の進捗状況について
- 第 5 回（第 10 回）理事会 令和 2 年 3 月 31 日 開催
- 議案第 13 号 令和 2 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
- 報告第 4 号 重要事項及び業務報告について
- 理事事業説明会 令和元年 9 月 25 日 15 時開催
- 理事懇談会 令和元年 9 月 25 日 17 時開催
- (2) 決算監査 令和元年 6 月 13 日 開催
- (3) 通常総会 令和元年 6 月 27 日 開催

【業務の状況】

1 官民連携まちなか活性化事業

地域住民や商店街をはじめとした関係団体と連携し、誇れる地域創出のためにまちなかを活性化する方策や事業等を検討し実施した。

(1) 復興道路と新たなまちづくり事業

①伊達川東地区協議会が取り組む「農業を活用したまちづくり」を進めるための事業に対して支援を行った。

- ・「天津桃（明治時代に中国から導入された最初の桃で、酸味が強い品種で砂糖煮として食べられていたが、今ではあまり見かけない「幻の桃」）」を活用した 6 次化商品の創作事業への支援。
- ・福島学院大学短期大学部食物栄養科と伊達川東地区協議会地域活性化分科会の共同開発事業として行われた。

《成果》

- ・ソース 2 種（スイートソース・スパイシーソース）の創作



(2) 商店街イベント事業

- ・イベントによる商店街の認知及び集客UPを図るため、納涼盆踊りや年末年始事業を本年度も継続実施した。
- ・中央商店街の既存事業や伊達町マルシェ実行委員会のマルシェ事業等も関係団体と協議し継続実施した。
- ・イベントと各個店の創意工夫がマッチするような事業についても調査検討した。

- ・伊達町中央商店会と他の天王通り商店街や伊達地域の各個店が結び付く効果的なイベント事業についても検討し実施した。

①天王通り商店街納涼盆踊り

- ・伊達町中央商店会、長岡町内会、まちづくり伊達の三者で実行委員会を組織し、その庶務として盆踊りの運営等を行った。
- ・納涼盆踊りは、天王通りを通行止めにして行うため、交通規制関係の手続き、また、飲食の提供を行うことから保健所関係の協議及び手続きを進めた。
- ・かき氷機を購入し、販売しイベントを盛り上げた。
- ・交通規制等の予告看板の作成・設置・撤去を行った。
- ・盆踊りの参加者は、踊り手に配布した抽選番号券で 354 枚、外に飲食、イベントのコーナーでくつろぐ方が多くおり、人出は 500 名を超え、多くの市民がイベントを楽しんでいた。

《内容》

○8月12日（月）18：00 から、天王通りを車両交通規制して行う。

○19：00 から盆踊り（～20：30）

○参加者

- ・参加者は、各年代の方が参加していた。
- ・特に、若い子育て世代の方も多く、家族で盆踊りを楽しむ光景が見られた。

○様々な年代の参加者が、設置した櫓を囲み、お囃子に合わせて、長岡の夏の風物詩「盆踊り」を楽しんだ

○露店や飲食関係者の協力、事業に賛同する方々の協力を得て、イベントを盛り上げることができた。

※伊達の川西地区は、新住民、特に若い世代が多いことから、若い世代が求めるイベント内容を提供することができれば、更なる集客、活気を生み出せる。



②伊達町マルシェ実行委員会との連携

- ・伊達町マルシェ実行委員会が企画した、伊達町マルシェの支援（既存の継続事業支援）

○9月11日（水） 夜マルシェ

- ・例年金曜日の開催としていたが、試験的に今年は水曜日開催とした。参加しやすさでは、これまでの金曜日の方がよかったとの意見があった。
- ・参加者：約300人強の参加者となった。
- ・事業運営のスタッフとして人的支援や「まちの駅」を出発、ゴール地点として活用した。
（イベントのゴールとし、抽選会場及び休憩所として提供した。）
- ・開設準備中のまちの駅まちカフェも、事業予定者によるプチカフェとしてイベントに参加し多くの市民で賑わった。

○10月22日（火）祝日 昼マルシェ

- ・悪天候により外での「ダテリンピック」は中止とした。
- ・飲食含むイベントは、雨の中実施した。
- ・商店街と一体となったイベント事業については、「商店街スタンプラリー」を実施し、悪天候にもかかわらず130名強の参加があった。
- ・天王通り商店街の各商店を回り、完走者には参加商店会のお買物券をプレゼントした。
- ・ワゴンセールなどを行う商店も出現し、賑やかに行われた。
- ・まちカフェの屋台版を出店し、まちの駅店頭での販売を行った。

○イルミネーション事業への参画（12月15日～翌年2月末日）

- ・街中の賑わいと年末イルミネーションの魅力を発信するため12月15日に「点灯式」を行った。
- ・点灯式のイベントは、福島学院大学や伊達町中央商店会の協力で、午後3時からお楽しみイベントを開始した。
- ・点灯式は、午後6時から始まり福島学院大学の学生が主体となり進行し、ハンドベルの演奏や山崎明保さんの弾き語り等が催された。
- ・まちカフェ「ふらっと」において、学院大生によるカフェが運営されコーヒーやケーキに多くの市民が舌鼓を打った。
- ・イベント広場のイルミネーション装飾の設置や撤去を実行委員会の会



員と共にいった。

③商店会初売り事業支援

商店会に賑わいを出すため初売り事業の「天王初市」を、商店会と話し合い、準備・協力した。

○12月16日（月）売り出し開始・・・伊達町中央商店会主催

300円のお買物にサービス券1枚配布し、サービス券3枚で1回のお楽しみ抽選を行う。

○商店会の会員以外の商店も参加した・・・全8店で実施

○1月2日（金）・3日（土）に抽選会を行った。抽選会場は、まちの駅まちづくり伊達を利用した。

○商店街の感謝市チラシ等で周知し、元旦に「天王初市」チラシを新聞折込みした。

○参加店で利用できるお買物券を景品とした。

（抽選結果）天王賞 5,000円…4本 1等賞 2,000円…28本

2等賞 1,000円…95本 3等賞 500円…263本

お年玉賞 5円…1,849本

※この事業は、伊達町中央商店会の主催事業で社団が支援し3年目となった。これまでの事業経験を基に実施しているが、商店会に人的余裕がないこと景品等の資金不足などから、参加者の増加には繋がっていない。

例年の反省点であるが魅力的な売出し品などの商店側の工夫が足りないと思われる。また、周知方法等についても、工夫を凝らす必要がある。

④ひな祭り事業の実施

3月の「ひな祭り」に合わせ、お客様を天王通り商店街に呼び込むための企画事業として実施した。

○「ひな祭り事業期間」・・・3月2日（月）・3月3日（火）

○商店街の商店に事業参加への参加を勧奨し（10店）、ひな祭りにちなんだ商品の企画を行い、売出し事業を行った。

○売り出し期間中のお客様に、桃の花と桜まんじゅうを配った。



○まちの駅で「甘酒」のサービスを行った。



○まちの駅事務所に、伊達こども園と伏黒幼稚園の園児の協力で作った「紙皿のひな人形」の作品を展示した。

○つるし雛作成の愛好者から、つるし雛を借り受け事務所に飾り付けた。

○雛人形七段飾りを市民から提供を受け、まちの駅内に展示した。

※販売促進の「桃の花と桜まんじゅう」の配布もあり、商店街の開店時間から多くの買い物客が商店街を訪れた。

また、グループで連れたって訪れる方や複数の店舗を回る方など、企画の趣旨が達成されていると思われる。

まちの駅にも休憩などで訪れる方が多数おり、甘酒のサービスは、あっという間に終了した。

⑤だて桜回遊事業

4月の桜をはじめとして花が咲き乱れるこの季節に、伊達地域に指定した19か所の桜を楽しみながらめぐり、歴史的なことや新しい何かを発見し、「ふるさと伊達」に関心を持っていただき、明日のまちづくりに繋げていくことを目的に実施している事業である。

○開催期間 4月30日まで

○参加者は、60名であった。参加者には、サクラスタンプ会のお買物券を進呈した。

※健康長寿を目指し、歩くことを勧める目的で街歩きと商店街を結びつけるための事業で、昨年より参加者が増加している。まちの新しい発見が多く寄せられた。地域の財産を発見し大切にしていこううえでも街歩きのような事業は必要と思われる。

⑥端午の節句事業

5月の「端午の節句」に合わせ、お客様を天王通り商店街に呼び込むための企画事業として実施した。

○天王通り商店街での特別販売事業を商店会の会員とその他の店が参加して（協賛店9店舗）行われた。

○各店が、売り出し品や端午の節句事業に合わせ特別商品（メニュー）を準備し事業を行った。

○売り出し期間中のお客様に、「柏餅」を進呈した。

○端午の節句に併せ、こいのぼりぬり絵展を、まちの駅で実施した。

・期 間 5月4日～5月20日

・伊達こども園・伏黒幼稚園の協力（年中・年長）を得て行い、その作品をまちの駅 まちづくり伊達に展示した。

○「原っぱ de ランラン拡大版」として、原っぱで遊んだ子どもたちに「お菓子券」配り、参加店でお菓子と交換する事業も展開した。

※ 商店街の和菓子を販促品として配布しており、これが人気の源か、端午の節句事業とひな祭り事業には、子どもの作品を見に訪れる方が多く、併せて商店に足を運ぶ方も多い。

⑦商店会加入店以外の店舗 PR 事業

伊達町中央商店会は、毎月15日を「感謝市」として、新聞折込みチラシでPRを行っている。しかし、商店会に加入していない他の商店はPRを行っていないことから、中央商店会のチラシの裏面を社団が編集し社団のお知らせと商店のPR記事を掲載する事業を行った。

※商店会加入店以外の店舗からの広告依頼もあり、PR掲載は、天王通り商店街の活性化の一助となっている。

⑧集客環境改善事業

商店街の美化推進のため昨年から行っているプランターへの春と秋の2回、花苗を植えるようにしている。各商店の軒先には、花が咲きお客様を迎えている。

また、降雪時のイベント広場や商店街店舗前の除雪をスムーズに行うため除雪機を購入した。

⑨真空包装機の検討

商店街での新たな販売方法の検討やママノマでの事業展開を見据え真空包装機の購入検討会を開催した。購入に向け検討していくこととしている。

⑩新型コロナウイルス対策

国や県、伊達市から発表される新型コロナ対策に関する資料やチラシを各商店に配布し、手洗いの励行や“三密”の回避等を商店の店頭からも市民に呼び掛けた。

また、各商店には手指消毒液や店内消毒液についても支援し斡旋した。

⑪ 商店街の先進地研修

天王通り商店街の各店の特徴ある店舗経営のため、特色ある商店街や商店の視察研修を2回実施した。

○ 仙台市の秋保温泉「スーパーさいち」と山形市七日町商店街

・ 日 時 令和元年 11 月 24 日（日）午前 7 時 30 分から午後 5 時

《 内容 》

・ 秋保温泉「スーパーさいち」

「おはぎ」の販売で有名な店舗で、午前 9 時過ぎに到着した時には店舗前の駐車場は満車で、誘導員 3 名が対応に当たっていた。

お客様は、「おはぎ」が目的で、一人でも何種類も何個も購入していく。駐車場は他にも何か所もあり、バスで訪れるお客もいる。秋保温泉の一角であり観光スポット的な位置づけになっているようだ。



※お役様目線の経営方針「売れ続ける理由」が明確であり、生活に密着した物をよりおいしく届けたいということが、消費者に受け入れられているようだ。

・ 山形市 七日町商店街



山形市七日町商店街は、市の中心エリアではあるが、JR 山形駅からは若干距離があり、伊達町中央商店街と似たような位置関係ではあるが、25 万都市の中心、花笠踊りのメインとなる場所であり、通りも広くビルが立ち並ぶ商店街で、人の流れは賑やかであった。

初めに市民の憩いの場として復元された「御殿堰」と周辺に整備された商業施設の一角で、七日町御殿堰開発株式会社結城社長から、商店街の再開発、集客の考え方等の説明を受けた。

次に、商店街の和菓子店「戸田屋正道」の戸田会長から、ビル

のリノベーションの現場や古くからのカフェなど商店街活性化を進めてきている中での厳しい現状説明を受けた。

※ 規模の違いはあるが、まちなか活性化への強い心意気と熱意に圧倒された。商業者も“本気でやる気”がなければならない。行政等に頼り切っては駄目である。結城社長のことばである。

戸田会長は、愚直に道を一生懸命極めているという感じで、その店舗もその意思が滲み出ているようであった。

○ 福島市飯野町商店街・福島市太田町商店街カフェ

・日時 令和2年2月23日（日）午後1時30分から午後6時

《内容》

・福島市飯野町商店街

飯野町商店街の「飯野つるし雛まつり」事業の視察が目的で、天王通り商店街で実施している「ひな祭り事業」の参考例としての視察である。まちの駅まちづくり伊達でつるし雛を飾って市民に披露しているが、飯野町商店街では、商店街を挙げて13年前から大々的に実施しており、イベントとしての取り組み状況や手法等について研修した。



・福島市太田町商店街

太田町商店街の中の太田町商店会はかつて、西部地区最大規模を誇り賑わっていたが、中心市街地の人口減少、郊外大型店の進出等により、商店数が減少し現在に至っている。

令和元年にオープンした「ミディ」を核として、太田町に再び賑わいを取り戻そうという新たな取り組みを行っている。

この「ミディ」は、ビルの1階にあるワインブティック＆ベーカリーカフェで、道路側の入口はワンショップへと。中央の入り口はベーカリーカフェへ。店内はワンフロアで、ワインブティックには、世界各国のワインや日本酒などたくさん販売されている。

ベーカリーカフェスペースでは、店内で焼き上げ、テイクアウトはもちろん、その場で食べることも可能。店内は明るく広く、テーブル席が6卓、一人ずつでも可能な大テーブル席が12席。

フリーWi-Fiやコンセントも完備している。

カフェの各種メニューが、非常に魅力的で参考となった。

※商店会の会員が仕掛けた店舗を商店街の活性化につなげようという取り組みであり、今後の「ママノマ」の整備にカフェのコンセプトを参考に、商店街と共に活性化できる取り組みを考えていく必要性を感じる研修であった。

(3) 起業者・後継者育成事業

店舗展開など起業化を目指している人・団体に対しての支援をする事業である。

①手作りパンの委託販売

地域で材料にこだわり、食パンや菓子パン等を制作販売している方と協議し、将来に向けて起業、開店を展望し実験的にまちの駅で委託販売している。

販売日は、土曜日であるが、販売情報が浸透し、販売日は土曜日だけなのかとの問い合わせもある。

※起業化に向け研鑽しており、販売品のレパートリーも増やしている。パンに加えて、ふらっとカフェでの営業を始めている。

②子育てママの団体に事務所一部を賃貸

子育てママが子育てや働き方を考え、ふるさとづくりに貢献したいという思いで設立した「Life for Mothers」に事務所の一部を賃貸している。

この団体は、民間団体の補助事業等を資金源に、大人も子供も支え合い、幸せを感じる社会を目指し、話し合いの場や学びの場、働く場を作っていくことを目的としている。

事業としては、子どもたちの居場所づくり事業や若い子育て中のお母さんを対象とした事業などを展開している。

※当団体の設立目的の官民連携を地で行っているこの団体の活動に期待を寄せている。

地域のボランティアを募り、協力を得るなど、活動の幅を広げており、多世代が交流し一体感のある地域づくりに当団体とも協力してい

ければ良いと思う。

③伊達市の廃校活用を行う団体の設立支援

旧大枝小学校の廃校利用を提案している任意団体が、法人化と事業推進に向け事務を執っている。当社団の法人化の手続き等を参考しながら、法人化の進め方等について教示して欲しいとの要請に応え、当社団 2 階事務室において事務を執っている。

※当該任意団体は、本年 2 月 1 0 日に法人化され、校舎活用について伊達市と正式契約が完了し利用できるまで、当社団 2 階事務室で事務を執る。このように多様な団体とも連携し、地域活性化を進めたい。

2 官民連携まちなか再生社会実験事業

まちなかの賑わいを創出するため、平成 29 年 5 月から天王通り商店街の空き店舗を賃貸し、公共用地や商店街周辺地を活用した様々な事業を検討、企画し、地域住民が楽しみ、会話し、休憩し回遊できる地域・商店街とするための「場」の創設のための社会実験を行っている。

(1)法人事務所運営事業（まちの駅 まちづくり伊達）

社会実験の効果を一層高めるために「まちの駅」の認証を受けた。

地域の市民が、楽しく集うことのできる場所として、どのように運営し何が必要なのか、まちなか再生のための社会実験を進めている。

事務所での事業と併せ、旧公民館跡地のまちなか原っぱを活用した事業等も検討し芝生化し、まちなかの賑わい創出を目指して事業を行っている。

①多目的に多くの市民の方に利用いただける空間としての取り組み

市民が求める気軽に楽しく利用できる施設となるには何が必要なのか検討し、休憩スペースの確保（テーブル・イス・お茶、コーヒー等）や、楽しめる器具（卓球台・健康運動器具）を設置し利用状況の検証をしている。



※休憩施設として、地域に認知されてきており、友人と過ごす場所、散歩の休憩場所などで常に活用され始めている

また、小・中学生が、放課後の居場所として利用しており、特に、春休みや夏休み等の長期休業時の利用が特に多くなっている。

- ②卓球台の利用は、親子や夫婦の方々、友人同士が卓球目的で来所し、楽しんでいる。また、小・中学生も放課後、ゲームや卓球を通し仲間との交流を深めている。

※卓球台を置く意味は大変大きい。設置が定着し、帰省した孫と卓球に興じる老夫婦など微笑ましい。

毎週、楽しみに集まるグループもあり、休憩場プラスが必要であると痛感させられる。

- ③市立図書館の「伊達文庫」や市民から提供を受けた図書を置き、市民に提供している。

これらは、貸し出しをしており、自由に借りることできる図書として気軽に借りていく方も多く利用者からは好評を博している。

※新築や改修などで処分しようとした図書の提供を受け、歴史小説や文庫本が思わぬ人気である。また、コミック誌なども提供を受けた。年代によっては夢中になるようだ。

絵本等の利用を期待しているが、利用が少ない。親と子どもが一諸に読めるスペースなどが必要である。



- ④まちの駅としての情報発信

まちの駅の認定を受けた後、情報基地として各種の情報収集に努めている。行政情報や各種フリーペーパー、民間情報誌等を独自の分けし棚等に備えて提供している。

※いろいろな情報を収集するために来所する方々もあり、社団としても今後多くの情報を収集するよう努めていきたい。



⑤街・だての発行

「まちの駅 まちづくり伊達」の事業内容を広く市民へ周知するために「街・だて」として情報発信している。

その方法は、伊達町中央商店会が発行する感謝市チラシの裏面を活用し、イベントの周知やまちの駅のイベント等を発信している。

街・だて 令和2年2月15日

天王通りお買物 桜餅と桃の花プレゼント
天王通り商店街の春のイベント「ひな祭り」を実施します。
※桜餅と桃の花をプレゼントします。
※天王通り商店街の春のイベント「ひな祭り」を実施します。
※天王通り商店街の春のイベント「ひな祭り」を実施します。

令和だて桜回遊事業
伊達地域の桜の名所やウォーキングで、桜を満喫できる回遊コースを設定します。
※桜の名所やウォーキングで、桜を満喫できる回遊コースを設定します。
※桜の名所やウォーキングで、桜を満喫できる回遊コースを設定します。

園児のお遊戯作品を展示
まちの駅2月27日の展示コーナーで、園児のお遊戯作品を展示します。
※園児のお遊戯作品を展示します。
※園児のお遊戯作品を展示します。

すまいるまーく・ミニコンサート開催
伊達市から来てくれるグループが、伊達市でミニコンサートを開催します。
※伊達市から来てくれるグループが、伊達市でミニコンサートを開催します。
※伊達市から来てくれるグループが、伊達市でミニコンサートを開催します。

まちの駅「ふらっと」
「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。
※「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。
※「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。

伊達接骨院
伊達接骨院は、伊達市にあり、伊達市で接骨・マッサージを行います。
※伊達接骨院は、伊達市にあり、伊達市で接骨・マッサージを行います。
※伊達接骨院は、伊達市にあり、伊達市で接骨・マッサージを行います。

街・だて 令和元年10月15日

まちの駅「ふらっと」
「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。
※「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。
※「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。

マルシェ・タネリピック2019
マルシェ・タネリピック2019は、伊達市でマルシェ・タネリピックを開催します。
※マルシェ・タネリピック2019は、伊達市でマルシェ・タネリピックを開催します。
※マルシェ・タネリピック2019は、伊達市でマルシェ・タネリピックを開催します。

まちの駅「ふらっと」
「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。
※「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。
※「ふらっと」とは、誰でも簡単に利用できる「まちの駅」です。

伊達接骨院
伊達接骨院は、伊達市にあり、伊達市で接骨・マッサージを行います。
※伊達接骨院は、伊達市にあり、伊達市で接骨・マッサージを行います。
※伊達接骨院は、伊達市にあり、伊達市で接骨・マッサージを行います。

⑥ホームページによる情報発信

社団の情報をホームページで発信している。行事やイベント情報の発信も心掛けています。

※行事やイベント情報について、「街・だて」の新聞折り込みだけでなく幅広い発信を目的にホームページによる発信を目指しているが、発信が遅れており、今後、方法も含め検討を急ぎたい。

⑦まちの駅の黒板掲示板で商店街等の情報を発信

まちの駅の入り口に黒板の掲示板を設置し、商店街の日替わり情報やおすそ分け市場情報、イベント等をPRしている。

※手づくり黑板に新鮮情報をチョークで毎日書き込むことで、まちの駅に入ってくる方も多く、おすそ分け市場の新鮮野菜やパン販売にも繋がっている。集客や広告のヒントになっている。



⑧地域団体への集会場所の提供 (長寿会・地域福社会・町内会・祭り実行委員会等)



社会実験として、賃料や時間なども緩やかに場所の提供をしている。

※まちの駅周辺の町内会や関係機関が会議等で数多く活用している。
使用料は、無料としているが、今後の検討課題である。

⑨ハンドメイドレンタルボックスの設置 ハンドメイド作品を「ハンドメイドレンタルボックス」を設置し、委託販売及び展示している また、購入希望者には、販売をしている。 レンタルボックス利用者…6名



※レンタルボックスの月額賃料と販売の場合は、販売手数料を頂いてい

る。利用者、購入者なども増加傾向である。

⑩おすそ分け市場の実施

朝採り野菜等地元の野菜を地域の皆様に提供し、商店街に足を運んで頂くための事業として、まちの駅の売り場を設け委託販売している。現在、7名の方が野菜等を出荷している。毎日、販売しており、リピーターも増えている。

価格が安く、量も適量と高齢者の方には特に好評である。最近では、若い主婦が、買物にくることも多くなり、野菜の鮮度と価格が、口コミで広がっていると感じている。

※出荷頂いている方には、おすそ分けの考えに共鳴いただき、新鮮で安価な野菜等を出荷頂いている。

野菜の買物から、まちの駅で休憩していただくような光景が増えている。出荷者からは、販売手数料を頂戴している

⑪まちの駅を活用してのイベント等の開催

まちの駅を活用して各種団体・グループ等のイベント開催を支援している。イベントによっては、年に数回開催するようになっている。

(ア)伊達写真会による天王祭写真展

天王祭を盛り上げるため、写真愛好家の団体がこれまで撮りためた作品の中から自信作を展示した。

休憩に訪れた市民などが、毎年にごやかに行われている天王祭を切り取った写真を見ながら間近に迫った天王様に想いをはせていた。

(イ)すまいる&みゅーじっく ミニコンサートの実施

昨年と同じく、音楽で街を元気にしたいという地元の音楽愛好家グループが主体で年3回実施した。今年度は、屋外のイベント広場でも実施した。街に音楽が流れると人も寄ってくる。

会場づくりから音響関係まで、すべて実施団体で行う手作りのコンサートである。



※音により出てくる人もおり、イベント等で人の流れが出来ると商店街で食事するなどの域内の経済効果もある。

(ウ)「碁の時クラブ」を実施

「碁の時」として、毎週金曜日の午後に囲碁の講習会を開催している。これは、このクラブの主宰者の発案で子どもたちに囲碁の楽しさを知ってもらいたいとの願いで続けてきた。

なかなか習いに来る子ども達も少なく、3月で終了した。

⑫手作りパンの委託販売

前出の起業支援としてまちの駅で委託販売している。販売日は、土曜日で、食パンなどを主に販売している。

※食パンなどだけの販売となっており、お客様からは、調理パンなどレパートリーを増やして欲しいとの要望が多い。また、土曜日に限らず販売してほしいとの要望もある。

⑬まちの駅2階スペースの活用

この店舗は、洋装品の小売業をしており、併せて住居としても利用されていた。このため、総2階であり、2階の住居スペースが空いていた。

空きスペースを借用したいと相談があり、当方の貸主の了解を得て当社団で賃貸することとした。

現在は、前出の「Life for Mothers」に賃貸している。

※Life for Mothersの活動は、地域に根差して、住民の活動を支援しているとするもので、活動の方向性が社団の方向性とも合致するので光熱水費程度の費用で賃貸している。

⑭公的事業への参画・協力

- ・県事業「クールシェア」に、「まちの駅まちづくり伊達」を登録
- ・県事業「ウォームシェア」に、「まちの駅まちづくり伊達」を登録
- ・伊達市チャレンジデーの受付所

(2)カフェの開設と運営支援

①経過

今までのまちづくりの協議の中で、市民要望が多いカフェの運営について協議を重ね「ママノマ」の構想ができた。その「ママノマ」についての建設計画が当初計画より延びる状況でとなり、協議を重ねてきた熱意を形

にしていくため、市と協議し「まちの駅」の内部を改装し「ママノマ」で動けるプレーヤーの育成を始めることとした。

飲食提供スペースについては、県北保健所と協議を重ね、給排水設備などの改修を行った。

また、飲食業としてのプレーヤーの育成のため最低限の調理器具や冷蔵庫などについても整備した。

客席については、福島学院大学の木村教授やアサノコウタ氏及び学生の支援を受け当社団のカフェプロジェクトメンバーなどと協議を行いながら改修を行った。さらに、名称についても福島学院大学の学生とカフェプロジェクトチームで協議・検討を重ねて「まちなかカフェ ふらっと」と命名した。

併せて、多くのお客様を迎えることから、伊達地方消防組合の指導の下、自動火災報知システムを整備した。

②カフェの運営

カフェの運営については、毎日営業する方はなかなか見つからないことから、「ママノマ」のプレーヤーの育成をするとの視点で、曜日毎で営業できる方を募り、火曜日から土曜日の日中に営業できるようになった。営業は、10月5日（土）からまちカフェ「ふらっと」として営業を開始した。曜日毎の店舗は次のとおり。

- | | | |
|----------|--------|-------------------|
| ・火曜日 | 甘味処 | 和菓子とお茶のセット |
| ・水曜日 | スイカフェ | ピザランチ |
| ・木曜日 | そば | 十割手打ちそば |
| ・金曜日 | そば | 十割手打ちそば |
| ・金曜日（夜間） | 麦々キッチン | 料理とレシピ（不定期） |
| ・土曜日 | ㊦カフェ | サンドウィッチ・ベーグルやデザート |

営業開始後は、それぞれの店で工夫を凝らしながら、商品を提供しており、一定の集客が見込めるようになってきた。

口コミでの来店や、地域の方がグループで利用するようになった。

本年3月からは、新型コロナウイルスの感染対応のため休業している。



※課題は、ママノマの営業を見据えた実験的な店舗であるので、求められている商品や価格帯などの情報の収集も必要と思われる。

また、まちカフェのPRをどのように進めていくか、より多くの集客をするための手法について検討が必要である。

③ママノマの建設に向けて

ママノマの基本設計策定に際し、市から協議が求められ、今までに協議してきたコンセプトなどを主に意見を提出してきた。

当初は、令和3年度建設の予定が、台風災害による事業見直しにより繰り延べられているが、早期の着手を願い「ふらっと」での事業者養成を進めている。

※旧公民館跡地に計画している「ママノマ」に関しては、伊達市で基本設計が進められている。

当団において計画した内容からすると大変厳しい内容ではあるが、旧公民館跡地が芝生化され施設ができることにより天王通りを含めた周辺地域、伊達地域の活性化が図られるようソフトの充実を図る必要がある。

(2) 天王市事業

①七草祭の七草粥事業

熱田・八雲神社の1月7日に実施される七種祭の伝統行事に併せて、本年から両神社で早朝に七種粥を振舞った。

以前は、飴や縁起物を販売する露店が立ち並んでいたが、現在は、出店していない。伝統行事を盛り上げるこの事業に、来訪者からは賛意が寄せられている。

②地域資源のシンボル設定事業（天王祭・盆踊り等でTシャツ等の販売）

「天王桶」や「天王様」と「天王桶」、「生糸」を地域振興のシンボルとして位置付けるため、そのデザインを活かし「Tシャツ」「トートバッグ」を作成販売している。

販売や各種イベントの景品として提供することで、長岡地域の歴史を背景とした賑わいのシンボルとなるよう事業を展開した。

③長岡天王祭フォトコンテストを実施

長岡天王祭は、伊達地区の夏の風物詩として、夏を彩る祭りであるこ

とから、この伝統の祭りを次世代に伝えとともに、その魅力を町内外に広くアピールすることを目的として夏祭りのフォトコンテストを主催した。

共催は、長岡天王祭実行委員会と伊達写友会である。

◎募集期間：7月26日～8月6日

◎応募作品：プリント作品・デジタルデータでの応募を合わせて29点。

8月8日に、大久保写真歓 大久保善人氏を選考委員長に、まちづくり伊達、長岡天王祭実行委員会、伊達町写友会から各1名で選考会を開催し、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞1点、佳作6点、入選10点を選定した。

8月12日の納涼盆踊りの開始前に表彰式を行った。

※途絶えていたフォトコンテストを再興した。天王祭が雨模様であったため、カメラマンは、勇壮な山車を写真に収めるのに苦労されていた。

④長岡天王祭フォトコンテスト入選作品の展示会の開催

本年度のフォトコンテストに入選した20点の作品の展示会をまちの駅で行った。

多くの市民方が訪れた。

◎展示会の期間 9月11日から9月25日

(3)まちなか原っぱ事業

旧伊達公民館跡地を芝生化し親子や子どもたちが伸び伸びと遊び、そこから商店街まで回遊できるような仕組みを目指す事業を社会実験事業として行った。

芝生化や板塀設置では、市民の参加を求めた「参加型のまちづくり」を進めてきた。

また、この原っぱを活用して「原っぱ de ランラン」事業と称し、第2と第4土曜日にボールなどの遊具を準備し、親子で伸び伸び遊べる事業を展開した。

①原っぱ（芝生）周辺整備

前年度に、伊達こども園の保護者の協力により原っぱの南側に板塀を設置したが、今年度は、西側・北側にも板塀等を設置し、作業を完了した。

②東屋の移設事業

原っぱには、日陰や休憩する場所がなかったことから、解体予定の旧伊達幼稚園の「東屋」を伊達市の支援により原っぱに移設し、課題解決に当たった。



③原っぱ（芝生広場）の開放

第2・第4土曜日に、ボールなどの遊具を開放して原っぱを開放する「原っぱ de ランラン」事業を実施している。

この事業以外の日でも原っぱは開放しており、小学生から中学生そして親子連れなど自由に利用している光景が見られるようになった。

※原っぱから商店街への回遊、商店街との連携について、実験している。

原っぱを利用して、イベント等の開催や商店街に出向くような仕掛けづくりを検討している。

芝生化と施設が結び付く事が重要で、ママノマの実現が待たれる。

④原っぱの遊ぶ環境づくり事業

原っぱ利用者や商店街イベント参加者も利用できる、水洗トイレと手洗い場を設置し、維持管理している。

防犯上の観点から、まちの駅の営業時間に合わせて開閉している。

※学校帰りに小学生が利用する例などもあるようだ。

3 官民連携まちなか再生推進事業

「伊達地域まちづくり基本計画」に基づく基本構想・アクションプランにより、天王広場とまちなか高齢者住宅について、昨年度まとめた基本的な考えのもと可能性を検討している。

(1) 天王広場事業

伊達地域の中心である旧伊達公民館跡地、福島信用金庫伊達支店周辺、熱田・八雲神社を連携させた天王広場の創設を目指すための計画である。

整備には、資金、協力、そして地域的なコンセンサスが重要であり、その中でも伊達市の方針決定が無いと進まない。

現状においては、当社団から昨年度計画を示しているが、伊達市の方針決定には至っていない。

(2) まちなか高齢者住宅事業

高齢者が、自立して生活できる生活環境を目指し、商店街の近辺に官民連携による“伊達市らしい”高齢者住宅のまちなか高齢者住宅の建設を目指すものである。

前年度には、「まちなか高齢者住宅」に関する整備の提案を提出している。

①空き家となる前の有効活用

高齢者の死亡等による空き家が多くなっている。高齢者が大きな敷地で大きな家で暮らすことは困難となっている。

そのような場合としての高齢者住宅があり、大きな家は新たな世代で利用していく等の仕組みができれば空き家も少なくなり、人口の減少も抑えられるのではないかと思う。

②高齢者住宅の可能性

伊達地域には、天王通り商店街に面した場所に一群の空き地が存在する。個人所有の土地ではあるが、行政の大きな支援があれば、多世代複合型の共同住宅の建設が可能である。

③行政の大きな支援

民間では、採算性が求められ、モデル事業の着手は難しいことから、空き家対策事業や地域活性化事業と合わせた行政の手厚い支援による事業が望ましい。

4 健幸に満ちた誇れる地域づくり、まちづくり事業

市民の意見反映から行動へのプロセスが重要であることから、若者や新住民も巻き込み、地域住民等からの、地域関係機関、行政への要望事業で当社団の目的に沿う事業等について実施及び調査検討する。

①Life for Mothers への支援

子育て世代のママで構成する“Life for Mothers”がおこなう地域の子育て世代を対象とする支援事業や子どもたちの居場所づくり事業について周辺の住民をスタッフとして巻き込むなど、まちづくり事業として有効なことから支援を行った。

②地域の歴史を紙芝居にする検討

「地元の歴史等について紙芝居を作成し、小学校等に配布し地域の歴史勉強に役立て、地元に誇りと愛着を感じてほしい。」との伊達町郷土史研究会からの提案で、「義民 斎藤彦内」と「西念和尚」の紙芝居作成を検討した。

以前に作成され保管されている紙芝居を原版として借用できるかなど協議し制作について検討した。

③官民連携事業の模索

当社団の収益事業拡大のため、伊達駅前改修に伴う駐車場の運営や伊達駅の観光案内業務等について、伊達市の関係機関と協議した。

伊達駅駐車場の運営については、有料駐車場として管理機械導入で計画中であり年度内、次年度の中では困難であった。また、伊達駅における観光案内業務については、伊達総合支所を通じ協議中である。

④伊達地域賀詞交換会の実施

伊達町ライオンズクラブから相談を受け、当該団体等と実行委員会を組織し実施した。

相馬福島道路の伊達インターチェンジの開通を見据え、伊達地域の各種産業関係者間の情報交換を行い地域振興に役立てようとするもので、来賓も含め 79 名が参加し 1 月 21 日に実施した。